

合理的配慮の提供事例報告書【中学校】

事例の概要

中学校に入学してきた自閉症・情緒障害特別支援学級在籍の1年生への支援についてまとめたものである。本生徒は、入学時、新しい環境に対して顕著に不安を感じているようであった。そのため本生徒に対して様々な支援を行ってきた。

まず、学校生活を安心して過ごすことができるように、原則1時間目に自立活動の時間を設けた。そこで一日の学校生活の見通しをたてたり、行事についての学習を行った。

次に、交流学級での授業に参加する時は、各教科担任と相談し、学習内容を精選・調整して、本生徒が頑張ることができるものをつくってきた。

さらに、個別の教育支援計画をもとにし、全職員で共通理解して指導に当たる姿勢を大切にした。

1 対象生徒の障害種

自閉症

2 障害の程度

非該当(知的障害)

※学校教育法施行令22条の3に該当か非該当か

3 在籍状況

中学校・特別支援学級

4 学年

中1

5 対象生徒の実態

学校生活に見通しが立たない場合、不安な気持ちが高まる。状況を把握することが苦手なため、たくさんの指示があったり、状況を呑み込めないまま次の行動を求められたりすると、大きな声でわからないことを訴える。

自分のペースで物事を進めたいという思いが強く、それを遮られると気持ちが不安定になる。また、失敗することを非常に嫌い、何度か声に出して自分を落ち着かせようとする。しかし、その気持ちが積み重なると自分をコントロールできなくなり、泣いてしまったり、大きな声を出したりする。

登下校など危険を予測して回避することが難しい。保護者同伴で登校している。

コミュニケーションをとることが苦手で、現在はあいさつの練習やうれしいことや困ったことを、他者に伝える練習をしている。

制服の着脱やトイレ、食事に介助が必要になる。少しずつ自分でできるように練習を積み重ねている。

6 対象生徒についての合意形成に至るまでの経緯

(1 誰からの申し出か 2 申し出の内容 3 連携、調整した関係機関 4 合意形成に至った結論)

本生徒は小学校でも自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍していた。小学校での取り組み内容をもとにし、中学校での具体的な支援内容についての提案を、本人および保護者にくり返し行った。

その上で、要望を聞き、教育支援計画を作成し、それをもとにして本生徒の指導にあたっている。

教育支援計画については、本校の特別支援会議で多くの教員で協議し作成している。また、職員会議等で全職員に周知し、本生徒の支援を行っている。

7 基礎的環境整備の視点と概要

基礎③ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導

市の研修の際、講師の先生より講義いただき、専門的な視点を得ることができた。それをもとにして、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成している。A市で独自に作成しているチェックシートも参考にして、それぞれの生徒の目標を作成している。

基礎⑧ 交流及び共同学習の推進

交流学級との関連を大切に、カリキュラムを作成している。教職員同士での情報交換を密にして、本生徒がやりがいを感じられるものを精選して、取り組むことができるように工夫している。

8 合理的配慮の観点と概要

合理①-1-1 学習上又は生活上の困難を改善・克服するための配慮

毎日の学校生活の中で不安を感じないように留意している。原則1時間目の学習は一定期間同じ教科とし、本生徒が安定して手ごたえをつかめるようにする。

学習形態は、学校生活の一日の流れ(給食の内容を含む)を確認でき、今後の行事を中心とした学校生活が理解できるようなプリントを使っている。

学習内容については、生徒が自分の力で取り組むことができるものとし、学習準備も自ら行うよう習慣づけることができた。

合理①-1-2 学習内容の変更・調整

交流学級での英語の授業では、授業の進め方をパターン化した。それにより誰もが見通しを持って学習できる。今何をしているのかを理解するだけで、不安な気持ちがなくなると感じる。

体育の授業で、開脚前転や倒立前転が困難なので、「前転ができる」を目標にし、まわりの友達とともに練習をした。本生徒のやりがいも感じられた。

理科の実験での配慮として、ガスバーナーの使用法であれば、ガス調整ねじ&空気調整ねじのひねり方に時計まわり・反時計まわりのように日常生活でよく使用する言葉でわかりやすく説明し、自力で取り組ませた。マッチを使用する際は危険なので順番に気を付け、教員と一緒にについて行うことにした。

9 成果と課題

<成果>

合理的配慮について、本校での特別支援学級生徒に対する指導実践が蓄積しており、これまでの実践の反省をいかして取り組むことができています。職員全体で共通理解を図ったことも成果の一つである。全ての生徒たちにとって実のある活動を行うことができるように、多くの教員で討議もできた。一人ひとりが大切にされる学校づくりの風土も進んできている。

<課題>

日々の活動の中で、精神的な不安定さがたまると、半月に一日のペースで学校を休む。休むことで心が安定して登校するという状態が続いている。少しずつ休みが減るように、合理的配慮の内容を工夫したい。